

有機農業推進法を受けて、国、地方自治体をはじめ有機農業推進へのさまざまな技術開発の取り組みがなされていますが、その情報交流の場が少ないのが現状です。そこで、国、地方自治体、大学および民間の研究者など有機農業の試験研究に従事または関心のある方々同士や有機農業実践者との情報交流を行える場として、「有機農業研究者会議2020」を開催します。

今回は、新型コロナウイルスの感染症の拡大を考慮し、オンライン方式(Zoomウェビナー)で開催します。

オンラインの特徴を生かし、都道府県、関係法人などにパブリックビューイング形式の参加を呼びかけ、全国各地で参加できるようにし、個人参加可能なパブリックビューイング会場をウェブサイトにて紹介します。

開催内容は、第1部では農地の生物間相互作用を中心とした基調講演と実施者の事例発表を、第2部では農研機構などから新しい土づくり技術に関する研究成果を紹介いたします。なお、ポスターセッションおよび情報交換会は実施しません。



研究者会議情報サイト



ダイズ圃場にて試験区ごとに土壌水分センサーを設置(福島大学)

オンライン 有機農業研究者会議 2020

2020年11月18日(水) 13:00▶18:10

参加費 ●個人参加(家族での視聴可)…2,000円

講演要旨のPDFファイルを開始前に送付。資料集のPDFファイルは、会議終了後、アンケートに回答いただいた参加者全員に配布します。

●パブリックビューイング会場…10,000円

団体名で申込。会場に応じて何人でも参加可能。会場費などパブリックビューイング形式を採用される場合にかかる費用は、お申込みいただいた団体で負担ください。講演要旨のPDFファイルを事前に送付しますので、必要数を印刷してください。

●印刷した資料集…1,000円(送料込み)

会議開始前日までにお手元に届くように発送します。パブリックビューイング会場で複数冊必要な場合は、1,000円×冊数分の金額が必要です。

申込締切 2020年11月10日(火)

【主催】「有機農業研究者会議2020」実行委員会
【共催】(国研)農研機構・中央農業研究センター、
日本有機農業学会、NPO法人有機農業参入促進協議会
【後援】農林水産省

基調講演講師紹介



にへい なおと
二瓶直登

1971年福島県生まれ。福島大学食農学類准教授。福島県職員時代より、持続型農業、環境保全型農業の施用に関する課題に取り組み、有機成分(特にアミノ酸)の植物栄養への寄与について研究を続けている。

震災後は農業環境中の放射性物質に着目し、放射性セシウムを吸わないダイズを目指した研究にも取り組んでいる。



イチゴ(熊本県山鹿市 伊藤将宏)

日程	
13:00-13:15	開会あいさつ
13:15-16:00	①農地の生物間相互作用に関する研究成果と農家事例
■座長	佐伯昌彦(株式会社マルタ)
■基調講演	■「作物-土壌-微生物の相互作用からなる農業環境エンジニアリングシステムについて」 二瓶直登(福島大学農学群食農学類)
■事例発表	■「有機いちご栽培技術の確立を目指して」 伊藤将宏(熊本県)
	■「多品目有機栽培の省力化技術について」 岸根正明(山梨県)
	■「技術開発と政策と現場を有機的につなぐ」 谷口吉光(秋田県立大学地域連携・研究推進センター)
	質疑応答
16:00-18:10	②「有機農業に活用できる堆肥・緑肥の利用法と効果～新しい土づくり技術の紹介～」
■座長	大脇良成(農研機構中央農業研究センター)
■話題提供	■「堆肥がもつ土づくり効果と肥料効果の利用」 井原啓貴(農研機構九州沖縄農業研究センター)
	■「堆肥がもつ土壌病害と線虫害の抑制効果の利用」 豊田剛己(東京農工大学大学院生物システム応用科学府)
	■「緑肥がもつ土づくり効果と肥料効果の利用」 唐澤敏彦(農研機構中央農業研究センター)
	■「緑肥がもつ線虫害の抑制効果の利用」 富田祐太郎(カネコ種苗くにさだ育種農場)
	閉会あいさつ(谷口吉光(日本有機農業学会))

※演題の一部は仮題です。講師など内容は変更になる場合があります(文中敬称略)。



レタス(山梨県北杜市 岸根正明)

「有機農業研究者会議2020」実行委員会事務局 NPO法人有機農業参入促進協議会(有参協)

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-5-12 偕楽ビル(新末広)3階 株式会社マルタ内
TEL:050-5362-1815 E-mail:office@yuki-hajimeru.net ウェブサイト:yuki-hajimeru.net

問い合わせ
申込先



参加申込フォーム